

四国デイスカバリー

～点から面へ！地域を経営者の視点で繋げる～

【写真提供：三豊市観光交流局】

今回ご紹介するのは、平成29年9月に三豊市が設立した地域商社「瀬戸内うどんカンパニー」です！

瀬戸内うどんカンパニーでは、香川が誇るさぬきうどん作りと文化を学べる「さぬきうどん英才教育キット」や三豊の食と観光名所を楽しむ「レストランパス」など、幅広い分野で常に新しい取り組みが行われています。

東京で6次産業化をサポートする会社を起業し代表を務めながら、瀬戸内うどんカンパニーのC U O（チーフ・うどん・オフィサー）として活躍されている北川智博さんにお話を伺いました。



●地域商社「瀬戸内うどんカンパニー」設立の経緯を教えてください。

三豊市には地域活性化のために頑張っている事業者がたくさんいるし、魅力ある資源もたくさんあります。これらの「地域資源」をうまく生かした新たな事業を展開するために「瀬戸内うどんカンパニー」は設立されました。地域内のモノやサービスを地域外に売り込むこと、まさに地域の稼ぐ力を強くするためのプロジェクトで、その旗振り役が私の仕事です。

私は東京で1次産品や地域ブランドをプロデュースする企業も経営しているのですが、プロデュースする商品もサービスもそれぞれは「点」なんですよね。自分が培った知識やノウハウを生かしながら、稼げる「点」同士を繋げて「面」にしていく仕事をしてみたいと考えていたところ、香川県の三豊市が地域商社のC U Oを一般公募することを知り、応募しました。

●C U O（チーフ・うどん・オフィサー）ってどんな仕事？



熱量ハンパない！北川C U O

こちらには知り合いもツテもないので、とにかくC U O就任後の1年間は三豊市にどんなプレーヤーがいて、この地域をどうしていきたいのかを地元の人にどんどん聞くところからスタートしました。最初はみなさん、三豊市全体のことではなく「自分の町をどうにかしたい」という意見ばかりでした。例えば、仁尾町の父母ヶ浜がインスタ映えスポットで盛り上がっていても、すぐ隣町では「父母ヶ浜がなんか盛り上がっているらしい」程度の反応でした。せっかく父母ヶ浜にたくさんの人が集まっているんだから、近隣の町も

そこに売り込みに行けばいいんですよ。

私は政治家でもなくただの経営者なので、私の仕事は「決断すること」だと思っています。限られた時間と予算と社会背景とを考えて「やらない」決断をし、残った「やるべきこと」に全力で取り組んでいきます。三豊にいるやる気のある人たちが行動を起こす手伝いをする、そしてこの地域の人たちが自立し、お互いに高め合っていけるような関係値を築くことが「瀬戸内うどんカンパニー」の役割だと思っています。

●地方創生や女性活躍など、地域活性化のキーワードについて

☑地方創生

東京もビジネスをするうえでは魅力的な環境だと思いますが、地方には地方の良さがあります。ホワイトスペース（ビジネスモデルの空白領域）が多く地域資源も豊富にあるので、私はビジネスマンとして「地方が面白い！」と思ったから事業をしています。

また、三豊市は行政と住民のパワーバランスがとても面白いと思います。三豊市政は行政主導型ではありますが、住民側にどんどん権限移譲をしているために中間よりの行政主導型と言えます。三豊市は7つの町が合併してできた市であるため、強力なリーダーのもとトップダウンで運営している市と比較すると市自体の力は弱いかもしいけれど、それを行政が民間と協力することでカバーしているという背景があります。市政運営のバランス感覚というか価値観は優れていると思います。

☑女性活躍

現在、瀬戸内うどんカンパニーのスタッフは4名中3名が女性です。女性の方がお客様目線を持ち仕事ができるという経営合理的判断の結果です。女性が活躍できない世の中の制度が問題なのではなく、優秀な女性を生かせない経営者が多いことが問題なのではないでしょうか。私自身も優秀な方々にパートナーとして一緒に働きたいと思ってもらえるよう経営者としてレベルを上げていかないといけないし、世の中のためになる仕事をしていきたいと思います。



●ズバリ、今後の事業展開は！？

三豊だけではなく香川、瀬戸内、日本中、そして世界に繋がれるようなビジネスを目指していきます。さぬきうどん英才教育キットでは、普通の地域産品では得られないような「体験」や「学び」を提供するほか「地域資源の伝え方の1つのモデル」を作りたかったんです。そういうカテゴリーの土台さえ作ってしまえば、そこに乗っかりたい地域は全国にたくさんあります。スキームを活用してもらうことで点ではなく面に広がりますよね。近々のことと言えば、京都府の宇治田原町という宇治茶の名産地とコラボして宇治茶の英才教育キットを作ります。地域商社の地域間連携という新しい取り組みですが、最終的には「三豊市ってなんか面白い！」と注目していただけるはずです。他にも、大学の先生や四国内外各業界の人を巻き込んだ新たな地域ブランド作りも進行中です。これからも精一杯、経営者として地域の魅力をアピールしていくことに愚直に取り組んでいきたいと思っています。

<取材後記>

- 他の地域も巻き込む地域資源の伝え方の一つのモデルをつくることで、三豊市の活性化だけでなく国内外に波及効果をもたらそうとする北川さんの考えは非常に勉強になりました。これからはより地域の取組みに興味を持って、知見を広げていきたいです。(局 金融監督第二課 晋優太)
- 地方創生に対する知見を広められました！経営者だからこそ持てる視点がとても新鮮で、中でも地方だからこそビジネスの観点からできることがあるというお話が印象的でした。「自分ごと」にすることの大切さを教えていただけました！(局 統括国有財産管理官 高井竜平)

掲載している情報は、平成30年12月時点のものです。